

平成30年6月21日
住宅局建築指導課

建築物の既設の塀（ブロック塀や組積造の塀）の安全点検について

平成30年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震による塀の倒壊被害を受け、塀の安全対策については、学校の塀に限らず、広く一般の建築物を対象に、建築物の既設の塀の安全点検のためのチェックポイントを作成するとともに、特定行政庁に対し、所有者等に向けて、以下2点を注意喚起するよう要請しました。

- ①このチェックポイントを用いて安全点検を行うこと
- ②安全点検の結果、危険性が確認された場合には、付近通行者への速やかな注意表示及び補修・撤去等が必要となること

併せて、国土交通省では、関係業界に対し、所有者等からの診断等の依頼に適切に対応するよう依頼しております。

国土交通省としては、建築物の既設の塀については、今回の措置のほか、既に以下の取り組みを進めているところです。

- ・ 学校の塀について、特定行政庁に対し、学校設置者が行う安全点検に対し連携して対応するよう要請（6月19日付）。
- ・ 大阪北部を震源とする地震にかかる被災建築物応急危険度判定において、地方公共団体に対し、塀のひび割れや傾き等に特に留意して実施するように通知（6月20日付）。国土交通省としても、高槻市からの要請を受け、TEC-FORCEの派遣により支援しているところ。

※ チェックポイントは、国土交通省HP
(<http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/index.html>)に掲載します。

※ 所有者等からのお問い合わせ先は、建築基準に関することは建築行政を所管する各特定行政庁、専門家への相談については建築士関係団体等となります。連絡先については、上記の国土交通省HPに掲載します。

【問い合わせ先】

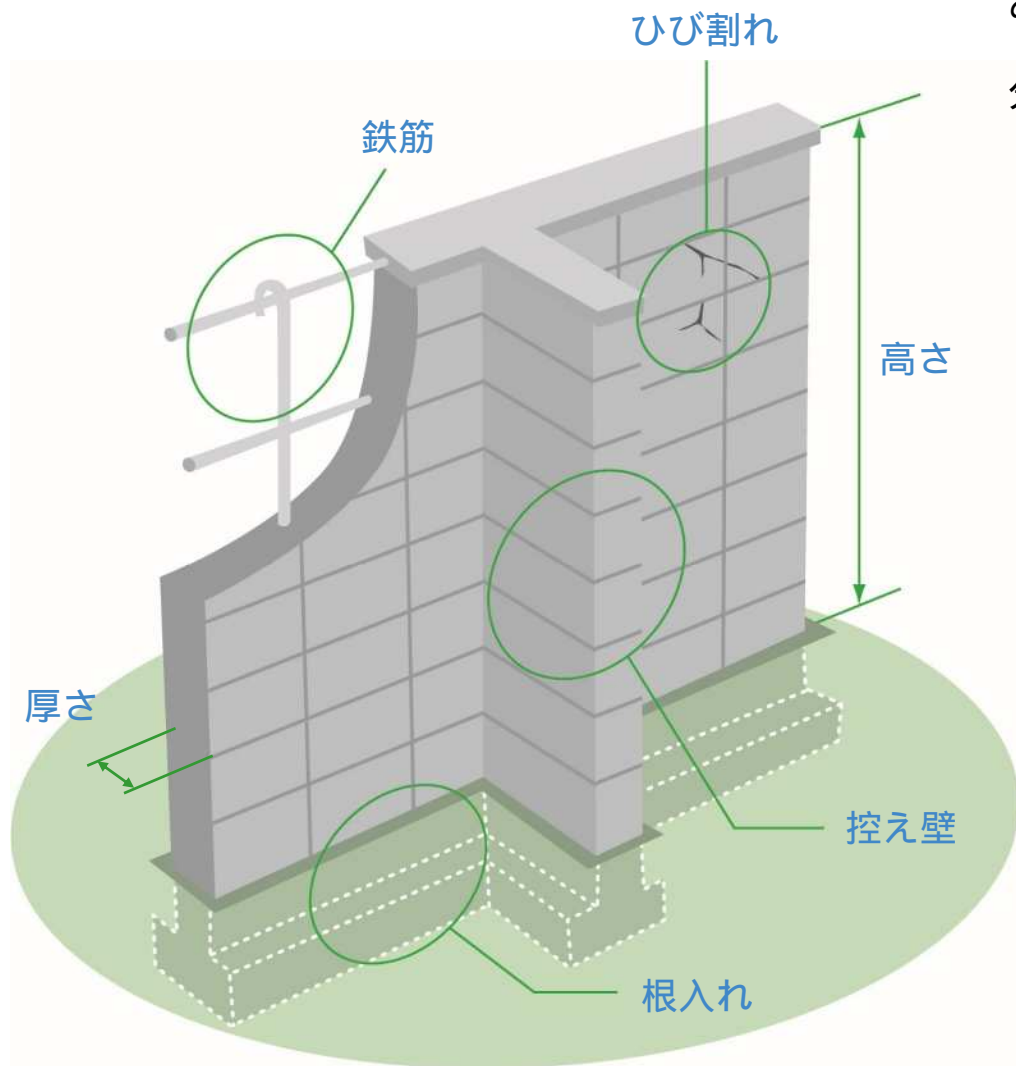
国土交通省 住宅局 建築指導課 松本・青木・中村

電話：03-5253-8111（内線 39532、39536、39528）、03-5253-8514（直通）

Fax：03-5253-1630

ブロック塀について、以下の項目を点検し、ひとつでも不適合があれば危険なので改善しましょう。

まず外観で1～5をチェックし、ひとつでも不適合がある場合や分からないことがあれば、専門家に相談しましょう。



1. 塀は高すぎないか

- ・塀の高さは地盤から2.2m以下か。

2. 塀の厚さは十分か

- ・塀の厚さは10cm以上か。(塀の高さが2m超2.2m以下の場合は15cm以上)

3. 控え壁はあるか。(塀の高さが1.2m超の場合)

- ・塀の長さ3.4m以下ごとに、塀の高さの1/5以上突出した控え壁があるか。

4. 基礎があるか

- ・コンクリートの基礎があるか。

5. 塀は健全か

- ・塀に傾き、ひび割れはないか。

< 専門家に相談しましょう >

6. 塀に鉄筋は入っているか

- ・塀の中に直径9mm以上の鉄筋が、縦横とも 80cm間隔以下で配筋されており、縦筋は壁頂部および基礎の横筋に、横筋は縦筋にそれぞれかぎ掛けされているか。
- ・基礎の根入れ深さは30cm以上か。(塀の高さが1.2m超の場合)

組積造(れんが造、石造、鉄筋のないブロック造)の塀の場合

1. 塀の高さは地盤から1.2m以下か。
2. 塀の厚さは十分か。
3. 塀の長さ4m以下ごとに、塀の厚さの1.5倍以上突出した控え壁があるか。
4. 基礎があるか。
5. 塀に傾き、ひび割れはないか。

< 専門家に相談しましょう >

6. 基礎の根入れ深さは20cm以上か。

専門家問合せ先

(一社) 東京都建築士事務所協会世田谷支部 TEL : 3 7 0 2 - 9 2 3 8

(社) 日本建築家協会関東甲信越支部世田谷地域会 TEL : 3 4 3 9 - 4 1 9 0

(一社) 東京建築士会世田谷支部 TEL : 6 4 1 3 - 1 0 5 2